

高田 佳孝
TAKADA, Yoshitaka
現代人間学部
こども教育学科 准教授

発表
01 10:05~10:30
小規模小学校
体育授業における
組み合わせ単元の事例研究

発表
02 10:30~10:55
体育実技と保健の
感染症対策の学習を
関連づけた単元構成のあり方

京都ノートルダム女子大学 研究プロジェクト 発表会2025

司会：須川 いずみ SUGAWA, Izumi
図書館情報センター会議委員

松島 るみ
MATSUSHIMA, Rumi
現代人間学部
心理学科 教授

共同研究者：
尾崎 仁美
OZAKI, Hitomi
現代人間学部
心理学科 教授

発表
03 10:55~11:20
学業エンゲージメントと
学びの充実感および
大学での成長実感との関連
—社会的エンゲージメントに着目して—

廣口 知世
HIROGUCHI, Tomoyo
現代人間学部
こども教育学科 講師

発表
04 11:20~11:45
小学校国語科における
問題解決的な問いに対する
話し合い学習指導

発表
05 11:45~12:10
小学校国語科における
哲学的な問いに対する
話し合いの過程に関する一考察

日時：2025年2月27日(木)
10:00~12:10 (開場 9:45)

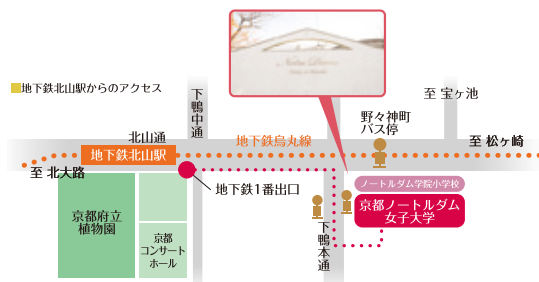
場所：京都ノートルダム女子大学
ユージニア館4階405教室

問合せ 京都ノートルダム女子大学 研究推進課

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1
TEL.075-706-3789 FAX.075-706-3793 E-mail:kenkyu@notredame.ac.jp

参加無料

事前申し込みは不要です。
どなたでも参加できます。
(途中退室可能)



交通 ACCESS

地下鉄丸太線「北山駅」①番出口より 東へ徒歩7分
市バス4号系統「野々神町」下車すぐ。もしくは、「北園町」下車 北へ徒歩5分

開会あいさつ 10:00~10:05

図書館情報センター長
加藤 佐千子 KATO, Sachiko図書館情報センター会議委員
司会: 須川 いずみ SUGAWA, Izumi

発表 01

10:05~10:30

小規模小学校体育授業における
組み合わせ単元の事例研究

概要

▶ 2022年度研究一般助成・個人研究助成金採択研究

小規模小学校では、複式学級と呼ばれる授業形態がとられていることや、10人程度の単式学級が多く存在している。このような状況が見られる小規模小学校においては、人数の少なさによるデメリットが多いと言われている。体育授業においてもゲームが成立しないことや体力が持続しないなど、同様の課題が山積している。そこで、小規模小学校の高学年少人数学級を対象とし、「組み合わせ単元」を導入した追試の実践をおこない、どの単元の組み合わせが有効であるかについて検討する。運動領域については、高学年表現運動領域「表現」の単元と、陸上運動領域「走り高跳び」の単元を組み合わせで取り上げることとした。

発表 02

10:30~10:55

体育実技と保健の感染症対策の学習を
関連づけた単元構成のあり方

概要

▶ 2023年度研究一般助成・個人研究助成金採択研究

従前から学習指導要領において、保健と体育の学習は関連づけて指導することが求められてきた。しかし今日に至るまで、保健と体育実技を関連づける実践がおこなわれてきたとは言いがたい。そこで、体育実技と保健の感染症対策の学習を関連づけた単元を構成し、その成果を検証することにした。具体的には、①感染症の予防に関わる保健の学習を、体育実技の単元に組み込み、②教師と児童で感染症を予防するための学習規律をつくる。③学習規律は学習カードに記載し、毎時間、児童に規律が守れたのかのふり返りをする。この学習カードの分析と、実際の授業時間中の動画の分析を通して、保健の学習が体育実技に活かされているのかを検証する。

発表 03

10:55~11:20

学業エンゲージメントと学びの充実感および
大学での成長実感との関連 ―社会的エンゲージメントに着目して―

概要

▶ 2023年度研究一般助成・共同研究助成金採択研究
2024-2027年度 科学研究費基盤研究(C)採択研究(24K06487)

私たちが「どのように学びに関与するか」は「エンゲージメント」とよび、学習活動や学習成果に関わる重要な概念とされている。従来の研究では、学習者の課題に対する努力や持続性、学びの進め方といった、学びに対する学習者の個人的な側面が注目されてきた。しかし、社会的文脈において、どのように他者(教員や学修仲間)と関わり、また学習者自身が学習環境にどのように働きかけることで、より良い学習環境を創り出せるのかといった「社会的エンゲージメント」の視点は十分に検討されてこなかった。本研究では、この社会的エンゲージメントが学びの充実感や大学生活における成長実感にどのように関連するのかについて考察したい。

松島 るみ MATSUSHIMA, Rumi

現代人間学部心理学科 心理学研究科 教授

Profile

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科修士(博士(学校教育学))。2002年より京都ノートルダム女子大学講師、准教授を経て、2016年より京都ノートルダム女子大学現代人間学部心理学科 心理学研究科教授。専門分野:教育心理学。研究テーマ:学習者の自律的学習態度を規定する要因の研究。近著:『教職を学ぶ人の新・教育心理学』(共著、教育情報出版)。最新の研究業績:『教員からの自律性支援および教員に対するエンゲージメントが自己効力感に及ぼす影響』(日本教育工学会論文誌, 2024.48号)

共同研究者: 尾崎 仁美 OZAKI, Hitomi 現代人間学部 心理学科 教授

発表 04

11:20~11:45

小学校国語科における問題解決的な問いに対する
話し合い学習指導

概要

▶ 2023年度研究一般助成・個人研究助成金採択研究

本研究では、小学4年生を対象とした授業開発実践を通し、国語科における問題解決的な問いに対する話し合い学習指導の有効性を検証する。問題解決をめざす話し合いは、合意形成プロセスに則って行われる。しかし、子どもは合意形成プロセスに関する方法知を習得していないため、安易な賛同や取捨選択によって合意形成をする傾向がある。自分たちの話し合いをメタ認知する学習活動、話し合いのエラーモデルの提示という手立てを講じた授業により、誰もが納得する解決策を見出すための合意形成について子ども達がどのように考えたのか、話し合いがどのように変容したのかということについて考察する。

発表 05

11:45~12:10

小学校国語科における哲学的な問いに対する
話し合いの過程に関する一考察

概要

▶ 2024年度研究一般助成・個人研究助成金採択研究

本研究では、小学校5年生を対象とし、哲学的な問いに対する話し合いはどのように展開されるのかという問題について、事例研究を通じた検討を行う。小学校国語科における話し合いは、問題解決的な問いのみならず、哲学的な問いに対しても行われてきたが、その話し合いの分析は管見の限り見当たらない。そこで、授業実践で収集した子どもの話し合いのデータを基に、哲学対話と問いの枠組みを援用し、話し合いにおける問いかけの出現や話し合い展開について、量的・質的に分析・考察する。そして、子どもにおける哲学的な問いに対する話し合いがどのような条件をもっているのか、どのような過程を経るのかということを明らかにする。

高田 佳孝

TAKADA, Yoshitaka

現代人間学部

こども教育学科 准教授

Profile

滋賀大学大学院教育学研究科修士。関西大学大学院博士課程人間健康研究科在学中。滋賀県公立小学校教諭、短期大学講師を経て、現在京都ノートルダム女子大学現代人間学部こども教育学科准教授。研究領域は、体育科教育学。論文・著書は『体育実技と感染症の学習を関連づけた授業の歴史的変遷』(体育科教育学研究2023年)、『新版スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくり/指導案の基本とプラン集』(創文企画2024年)など。

廣口 知世

HIROGUCHI, Tomoyo

現代人間学部

こども教育学科 講師

Profile

京都ノートルダム女子大学講師。修士(教育学)。北九州市立小学校教諭8年、国立大学附属小学校教諭8年の小学校教諭を経て、現在に至る。専門分野は、国語科教育、音声言語コミュニケーション。共著に『トピック学習で話し合い力を育てる―子どもたちとつくり上げた6年間の軌跡―』、共同(分担)に『資質・能力を育成する小学校国語科授業づくりと学習評価』などがある。